

新入生合宿研修 ―7コースに分かれて実施―

学生委員会委員・文化財・書道芸術コース担当・助教 大山明彦

■大学恒例の行事

本学では例年、教育行事の一環としての新入生を対象とする合宿研修が、各コース毎に執り行われています。本年度も4月の第3～5週にかけて、多くは1泊2日の日程で実施されました。

この研修は新入生と教員が、まず親睦を深め、またこれから卒業までの充実した学びのスタイルについて、互いに確かめ合う絶好の機会となっています。本年はたとえば、「絵はがきスケッチとウォーキング」・「講演・平地林を守る」・「博物館・遺跡見学」など各コースの特徴を生かした様々な企画がなされ、またさらに上回生有志の積極的な参加があったコースもあるなど、まさに大学恒例の行事となっています。

以下に、私の所属している文化財・書道芸術コースの実施状況について、簡略にご紹介させて頂きたいと思えます。なお、各々の実施の様子は、本学学生広報であります『天平雲』に、各コースの学生代表執筆によります手記がございますので、併せてご覧いただければ幸いです。

したら幸いです。

■文化財・書道芸術コースの場合 ―全員参加で完全燃焼―

本年度からの学部再編によりまして、新入生が37人に増えました。また教員もほぼ全員参加となり、総勢45名。大型バスもほぼ満席という大変賑やかな研修となりました。

初日は、三重県名張、伊賀、滋賀県信楽と史跡や博物館・歴史資料館などが豊富で、しかも公共の交通機関のみの利用では、とても1日では訪ねることが困難な地域を、最大限バスを有効利用して訪ねることができました。

研修執行担当は基本的にローテーションで毎年変わりますが、ここ数年、毎回実施場所が変わります。そのため例年担当となった教員は、たとえば過去に調査研究などで何度も足を運んだ場所であっても、近況把握のため、計画段階で必ず下見をするなど、無駄なく効率よく研修できるよう全力で計画を練ります。本年度も歴史・文化・芸術などに関心を持って集まってきた本

コース新入生にとって、願ってもない絶好の機会となったことと思います。

■何よりすごい 教員の自己(満足?)紹介

さて、初日夕食後の懇親会、ここでも全員が顔を合わせました。こどもコース・専修の紹介、学びのルールなどについてのコース代表教員のお話があり、次に新入生の出身地(全国区)のこと、専修を選んだ理由などを始めとする個性豊かな自己紹介がなされました。

そして各教員の自己紹介、持ち時間は各15分程でしたが、「研究分野選択の経緯」、「最新の研究成果」、「幼年期の思い出」、また「初恋の一場面」などなど……

各教員のほとぼる熱い語りに、学生達はすっかり引き込まれ、一夜にして親子の如くにうち解けることとなりました。

2日目は貸し切りバスの利用が叶いませんでしたが、これまた幸いと、「モ



史跡 信楽宮跡にて

リモリ」と自力で歩くことを前提としての行動となりました。それでもやっぱり、史跡や書道展示美術館へと、今度は専修毎に足を運びました。足腰の鍛錬とともに実地で学ぶ。どこでもどのような状況でも熱心な学びの場、姿勢を貫徹する我がコースの元氣いっぱい、盛りだくさんな新入生合宿研修のご紹介でした。